

## 令和元年度 二戸地域県立病院運営協議会 開催結果（要旨）

### 1 開催日時

令和元年 12 月 19 日（水） 14:00～15:25

### 2 開催場所

岩手県立二戸病院 地階大会議室

### 3 出席者（敬称略）

#### (1) 委員

工藤 大輔	藤原 淳	田中 辰也	山本 賢一	五枚橋久夫
松本 淳	杉江 琢美	菅原 光宏	山口 金男	木村 正樹
春川 郁子	中瀬 淑子	永井美保子	佐々木トマ	田口 和子
八森百合子	佐藤 勝子	細川 育子		

（田中辰也の代理出席 臼井 宏）

#### (2) 事務局

医療局	医療局長 熊谷 泰樹	医療局次長 小原 勝	経営管理課総括課長 吉田 陽悦
	医師支援推進室医師支援推進監 鈴木 優		
二戸病院	院長 佐藤 昌之	事務局長 千葉 直樹	総看護師長 林本 郁子
	副院長 及川 浩	副院長 藪田 昭典	副院長 高橋 浩
	副院長 小成 晋	副院長 川村 英伸	事務局次長 澤田 厚
	医事経営課長 北田 真紀	総務課長 西野 強	
一戸病院	院長 小井田潤一	事務局長 久慈 一広	総看護師長 斉藤 るり子
軽米病院	院長 横島 孝雄	事務局長 吉田 朗	総看護師長 伊藤 ゆかり
九戸地域診療センター	事務長 中野 栄司		

### 4 議事

#### (1) 開会（事務局）

#### (2) 委員紹介（事務局）

#### (3) 会長あいさつ（藤原二戸市長）

#### (4) 二戸病院長あいさつ（佐藤院長）

#### (5) 医療局長あいさつ（熊谷医療局長）

#### (7) 議事

県立病院運営協議会等要綱に基づき、藤原会長が議事を進行

- ① 二戸地域における県立病院の運営について二戸病院長、一戸病院副院長、軽米病院長及び二戸病院事務局長から説明

〔質問・意見等〕

○ 工藤委員

養成医師の配置について、医療局としてどのような基本的考えをもって進めていくつもりか伺いたい。

○ 鈴木医師支援推進監

奨学金養成医師については、55名を募集している。大学の6年間に加え、臨床研修医として2年間臨床したあと、具体的な配置となる。医師の場合、研修が終わったからといって、すぐ診療が出来るわけではなく、そこから勉強が続いていくこととなり、一人前になるにはかなりの時間がかかる。配置の対象になっている医師についても、病院に勤務しながら大学院に通って勉強したり、専門医の取得を目指している。現在、現場に配置されている医師は、今年の4月で53名である。毎年例年40数名程貸付をしているが、大学院で勉強したりすることもあり、この40数名がそのまま配置されるわけではない。

ざっと試算すると、地域病院への配置が充足されてくるのは4、5年ぐらいかかると考えている。

○ 工藤委員

診療科の偏在も課題だと思うが、この課題に対する二戸病院としての対応をどのように考えているか。

○ 鈴木医師支援推進監

診療科偏在も課題ではあるが、岩手県の場合はどの診療科も足りていない現状がある。まずは、奨学金養成医師や招聘医師で全体を増やすことに取り組んでいる。

産婦人科や小児科については、影響も出てきているので、産婦人科、小児科を選択した医師については、今後の配置について、産婦人科、小児科がある病院へ配置するなどのインセンティブを与えることを平成30年度から始めている。今年4月に配置対象の医師のうち5名が産婦人科を選択しており、また、今年度臨床研修を終える医師の中にも2名程度、産婦人科を選択しようと考えている奨学生がいる。

○ 工藤委員

2025年団塊の世代が75歳以上になっているとすることで、人口の4人に1人が後期高齢者になるとクローズアップされている。岩手医大が新しくなり、岩手の医療も大きな転換期に差しかかると思われる。高度な医療については、岩手医大が一手に引き受けていくのではないかと、そして地方の中核病院がどのような役割になっていくのか、認知症の患者も増えていく中、役割がシフトしていくのではないかと。

二戸管内の今後の医療のあり方について、どういう形が望ましいのか各院長に伺いたい。

○ 佐藤二戸病院長

岩手県内、盛岡でさえ人口が減ってきている現状がある。周産期についても、お産をする妊婦も目に見えて減ってきている。減っていきっているから無くしていいということではない。一方、肺炎や脳卒中の患者は増えているというより、割合が高くなってきている。そういった中で、ただでさえ医師が少ないわけであるが、この医師数を今後も確保できていければ、なんとか現状の医療提供を維持できると考えている。

県北における周産期の体制はどうか心配されていると思われるが、岩手医大の産婦人科医局でも、現在の体制を維持していく考えであると聞いている。

中部病院の産婦人科を東北大学が引き上げるといった報道があったが、岩手医大の産婦人科では岩手県内の周産期を守るため岩手医大でバックアップするとし、中部病院への医師派遣を決めたところである。

○ 小井田一戸病院長

圏域で必要なのは、地域包括ケアシステムである。皆が高度医療を望んでいるわけではない。高度な医療は岩手医大というのは、よろしいと思う。ただ、地域は地域包括ケアをメインに、一般的な病気を地域で診て地域で完結しようという流れになるのではないかと思う。認知症についても、入院が必要な方は地域で入院、そうでない方はデイサービスで施設を利用しながらという流れになっていくのではないかと考えており、一戸病院としても責任をもってサービスを提供していきたい。

○ 横島軽米病院長

もともと岩手で求められている医師は、専門性を持った総合医である。奨学金を借りた医師は地域に出なければならない。地域病院に出た時、地域ならではの患者を診る楽しさを経験していただきたい。小規模病院では、そのような医師を育てていきたい。

圏域の中では、ある程度専門性をもった病院が必要であると考えており、その中で小規模病院が支えながら、地域に必要な医師も育てていきたい。

○ 山本委員

先に国が示した病院の統廃合について、町村会としても猛烈に反対していくこととしているが、そのような情報がなかなか入ってこない。そのような中、二戸圏域の病院では地域包括ケア病棟、病床の導入など努力されていることがわかるが、地域包括ケアのベッドを増やすことで、今後、統廃合は大丈夫なのか。

○ 熊谷医療局長

病院の再編統合という形で報道されたが、国に言わせるとマスコミが、あたかも病院が無くなるという報道のされ方で、地域に不安をあおってしまったというところがあり、その点については、国も地方に対し謝罪をしているところである。県としても国に対し、きちんと説明責任を果たしてくれとお願いしている。

国が求めるものは、再編統合だけではなく医療機能の転換や連携も入ると説明している。

国が公表した病院に、県立病院として4病院が該当したが、既に地域包括ケア病棟、病床の導入や、使用されていない病床の削減を図るといった見直しを行っていることから、ただちに大幅な病院の再編や見直しが求められるものではないと受け止めている。医療局の他、県の医療政策を担う保健福祉部においても同様の認識である。

医療局としては、不断の見直しは地域の実情や該当病院の実態を踏まえながら対応してきているところである。今回の国の再検証に当たっては、地域医療構想調整会議の中で議論されるものと考えており、その議論の状況を踏まえながら適切に対応してまいりたい。

○ 山本委員

地域包括ケアシステムの構築を図っていくことが大事だと考えており、介護施設や地域との連携をこれまで以上にお願いしたい。

小児科や産婦人科医師の確保については、行政の立場からすると定住や移住といった政策に直結してくるので、その点についてもよろしく願います。

○ 山口委員

今般、二戸病院に地域包括ケア病棟が導入されるということで、勉強させてもらった。地域住民は、急性期を過ぎればすぐに介護施設を見つけろということになるが、そう簡単には見つからなく、不安があった。二戸病院で地域包括ケア病棟を導入するというので、住民は安心感が得られると考えているが、医師が対応できるのか。また、県北地域にはリハビリの専門職が少ないというのが課題となっているので、その点についても考えていただきたい。

この地域包括ケア病棟は地域住民に安心感を与えていると思っている。

一戸病院の認知症デイケアについて、サービスを受けるためには、家族の送迎などの問題があるようだが、一戸病院として受け入れ体制が整っているというのであれば、二戸市社会福祉協議会としても、無償の交通手段を検討したい。

○ 小井田一戸病院長

家族の送迎ではなく、公的な交通手段での送迎を希望する方も多い。周辺市町村の首長を回ってお願いしたり、既存のサービスを利用できないか工夫をしているが、今の発言をいただき大変心強く思っている。

○ 千葉二戸病院事務局長

地域包括ケア病棟への御期待をいただき感謝する。地域包括ケア病棟は病院のベッドではあるが、地域のベッドであるという職員の意識改革が必要であると考えており、院内で意思統一してまいりたい。医師への負担については、現在の病床数を増やすというのではなく、現在の病棟構成を見直した上で運用するものである。

地域包括ケア病棟は、地域包括ケアシステムの一つのツールとして考えている。病院としても地域包括ケアシステムに参画していくが、主役はケアマネジャーや地域包括支援センターだと思っており、関係機関との連携がカギなると考えている。

○ 山口委員

ケアマネジャーも福祉関係者も期待しているのでよろしく願います。

○ 菅原委員

奨学生として毎年 50 数名に貸付をしているということだが、医師が増えているという実感がない。奨学生の中で義務履行せずに一括返還をする人はどれぐらいの割合でいるのか。また、一括返還する時期はどのタイミングが多いのか。

○ 鈴木医師支援推進監

奨学金を借りて、返還する時期が一番多いのは学生の時である。当初は学費が不安で借りたが目途が立ったとか、奨学金を借りることで将来いろいろな制約があることを在学中に知って返還するというケースが一番多い。臨床研修医が終わり、実際に配置後に返還をするという方は、配置対象となっている 150 数名のうち 4、5 名という状況である。

○ 五枚橋委員

九戸地域診療センターの事業運営方針について、昨年度と変更箇所が多いように思うが、中身のなもので変化があったのか、それとも、やっていることに合わせて文言を整理したのか。

保健、福祉との連携について、九戸村は軽米病院と相談していくことになっているのか。それとも軽米病院がサービスで声をかけられているのか。

○ 横島軽米病院長

九戸村の患者で、軽米病院に入院する患者は結構おり、その方の退院調整について相談しているということである。

- 千葉二戸病院事務局長  
九戸診療センターの事業運営方針については、現在行っているものとこれからやっていかなければならないものに沿って改めて整理をしたものである。
  
- 五枚橋委員  
九戸村の保健、福祉分野で相談する場合は、どこに相談すればいいのか。
- 千葉二戸病院事務局長  
患者さんがかかっている病院の地域医療福祉連携室にお話いただければ、各病院と連携しながら対応していく。  
相談については、一義的には九戸地域診療センターに相談いただくことになるが、二戸病院の附属診療所でもあり、最終的には二戸病院も含めて対応していきたいと考えている。
- 五枚橋委員  
具体の患者の話ではなく、地域包括ケアシステムを組み立てていくにあたって相談する場合についてのお尋ねであった。二戸病院に相談する際はよろしく願います。
  
- 佐藤二戸病院長  
本日はいろいろとお話しいただいたが、聞き足りなかったことがあると思うので、この3病院はいつでもオープンにしているので、声をかけていただきたい。  
3病院でこの圏域を守っていくということで頑張っていきたいと考えているので、今後ともよろしく願います。本日はありがとうございました。

- ② その他  
無し

## (8) 閉会（事務局）